

# ありがとうジェシー

good job, thank you. Jesse



平成17年7月にアメリカから英語指導助手(AET)として羽幌にやってきたジェシー・ブラックさん。何も知らない全く初めての地に赴任して3年が経過しました。まもなく契約期間を終え帰国の途に着かれるジェシーさんにインタビューし、羽幌での3年間を振り返っていただきました。

なお、インタビューは全て日本語で応じてくれて、事前にも願っていた質問にあつては漢字を使った文書で答えてくれるなど、自他共に認める親日家ぶりを発揮してくれました。もともと日本語が上手だったジェシーさんですが、この3年間での上達ぶりには頭がさがります。そんなすっかり羽幌に馴染んで

込んだジェシーさんの今の気持ちを聞いてみました。

羽幌町での3年間を終えようとしています。今の気持ちは？

「羽幌は最高なまちだと思います。海や山があり、人が優しくすぐに慣れました。羽幌から離れるのは悲しいですけど、この3年間の経験ができたのは嬉しいです。」

羽幌での生活の前と後では、日本のイメージは変わりましたか？

「変わりました。以前は『日本』と聞いたら、サムライや富士山しか考えませんでした。でも、羽幌にいた間にいろいろと知って、今の印象は

ぜんぜん違います。

日本人は思った以上に優しく親切です。日本人はサムライ(真面目だが固い)じゃなく人間(人情がある)でしょう。」

どうしてもなじめなかった、日本の習慣や文化は？

「本当に頑張ったけど、まだ梅干しが食べられませんが、意外に思われるかもしれません。納豆は大丈夫です。でも、文化的に一番なじめなかったのは日本のATMです。なぜ24時間じゃないのでしょうか。自動の機械なので時間限定は意味が無いでしょう。」

幼児から高校生まで、羽幌のほとんどの子どもたちと接してきましたが、子どもたちの印象は？



「羽幌の子どもたちは最高です。うちの中でも教室の中でも、いつも元気な声で『ハロー』と言ってくれました。とても感じがよく、子どもたちの多才さにも感心しました。」

英語の他に、子どもたちに伝えることができたものはありますか？

「アメリカの文化や習慣などについて紹介できました。また、子どもたちは外国人と一緒に過ごすチャンスがあまりないので、その経験をさせてあげられたのが嬉しいです。」

反対に、子どもたちから何か教えられることはありますか？

「私は、きつと教えた以上に教えられたと思います。特に礼儀や我慢をすること。それと夢を持っているということ。これはアメリカの子どもたちと同じですね。」

今後の予定と将来の目標は？

「まずはアメリカに帰ります。向こうでどうするかは色々選択肢がありこれから考えますが、いずれ小学校の先生として仕事がしたいです。」

し、日本との関わりを持っていたい。できるなら、また日本に先生として来たいですね。」

最後に羽幌のみなさんにメッセージをお願いします。

「(本人が日本語で書いてくれた原文のまま紹介します)」

「羽幌の皆さんに、本当にありがとうございました。この間の3年間お世話になりました。私は分らなかつたことがいっぱいあつて、ご迷惑なことでしたからすみません。」

子どもの時から、日本に来て友達をつくと、日本の生活を体験するのは私の夢でした。その夢も実現しました。皆さん分っているよりも助けてくれたから、ありがとうございます。

羽幌の皆さんを忘れられません。羽幌の皆さん、サヨナラ！」

ジェシーさんは今月の24日に教育委員会での勤務が終了し、26日に羽幌を発たれるそうです。

3年間ご苦労様でした。母国での活躍をお祈りします。

